

東京スポーツ新聞社杯

第 24 回 トウケイニセイ記念（Ｍ２）

水沢競馬場３歳以上オープン・ダート１６００ｍ

11 月 23 日（月祝）　１８：０５発走

43 戦 39 勝２着３回３着１回。“伝説の名馬”を冠名としたトウケイニセイ記念は２０００年に創設。２０１９年度（２０２０年度は休止）までは年明けのレギュラーシーズン最終週をメインに行われていましたが、２０２１年度から実施時期が年内 12 月に早まり、今年は 11 月 23 日に実施。岩手競馬版グランプリレース・桐花賞（12 月 31 日）へ、より直結する重要な一戦となりました。昨年は走路悪化のため取りやめ。ヒロシクンは仕切り直しの２連覇を目指します。

【注目馬情報】

★ヒロシクン　セン７歳　佐藤雅彦きゅう舎・水沢

今シーズンは赤松杯から始動。貫禄の逃げ切りを決めて圧勝し、堂々２連覇を果たしました。シアンモア記念はルコルセールの２着に敗れましたが、続くＡ級・初夏特別で 59 キロの酷量を背負いながらも完勝。水沢１６００ｍのコースレコードを 19 年ぶりに更新しました。一條記念みちのく大賞典３着後、門別・旭岳賞へ遠征。ベルピットに完敗２着でしたが、帰郷初戦の青藍賞を６馬身差で圧勝。史上初めて青藍賞３連覇の偉業を達成しました。今回はＪｐｎⅠ・マイルチャンピオンシップ南部杯 11 着以来の実戦ですが、水沢１６００ｍは８戦８勝とパーフェクト成績を残してきたベストの条件。トニージェント（３連覇）、テンショウボス、ノーブルサターンに続いて史上４頭目のトウケイニセイ記念２連覇へまい進します。

★フォースメン　牡３歳　菅原勲きゅう舎・水沢

南関東５戦２勝から岩手入り。あっさり３連勝をマークし、東京ダービー指定競走・ダイヤモンドカップ（東日本交流）も完勝しました。以降はより高いステージを求めてダートグレードレースへ３戦連続で挑戦。ＪｐｎⅠ・東京ダービー10 着、ＪｐｎⅡ・不来方賞６着、ＪｐｎⅠ・ジャパンダートクラシック 12 着と壁の高さを痛感させられましたが、地元同士の戦いに戻って古馬重賞・すずらん賞でリケアカプチーノの２着を確保。全国の強豪と戦ってきた経験を生かしました。ヒロシクンに対し、３歳の成長力をアピールできるか、注目が集まります。

★トーセンマッシモ　セン８歳　佐藤浩一きゅう舎・水沢

今季３勝２着３回。重賞・駒形賞２着、赤松杯２着で健在を誇示し、着外はシアンモア記念６着のみ。抜群の安定感を誇っています。加えて目下３連勝中と勢い一番。悲願の重賞初制覇を目指します。

★クリナッチ　牝４歳　菅原勲きゅう舎・水沢

中央未勝利、門別２勝、中央１勝クラスから転入。格付けにも恵まれて圧巻の７連勝。牝馬重賞・ヴィーナススプリントを制し、秘めた素質を全面開花させました。前走３着でしたが、３戦３勝の水沢で反撃に転じます。

★ブラックバトラー　牡５歳　板垣吉則きゅう舎・水沢

２歳時に門別重賞・ブリーダーズゴールドジュニアＣを制し、北海道一冠目・北斗盃を優勝。北海優駿２着、王冠賞２着の強豪です。その後、園田３勝を経て転入。順調さを欠いていますが、休み明けを叩かれて良化確実。

★ビップアクア　牝７歳　佐々木由則きゅう舎・水沢

中央ダート２勝、南関東１勝、佐賀、名古屋と転籍して転入。７勝２着５回の好成績を収め、ヴィーナススプリント２着。前走・盛岡マイル戦でクリナッチに雪辱を果たし、弾みがつきました。

★ヤマニンリーリオ　牝６歳　伊藤和きゅう舎・水沢

中央未勝利、門別４勝から岩手入り。現在まで４勝２着４回。連対を外したのは忙しい競馬が合わなかった水沢８５０ｍ６着の一度のみ。メンバーは一気に強化されましたが、相手なりに駆ける堅実さが最大の武器。

文／松尾　康司